

看護学教育におけるコンピテンシー獲得に向けた 教育方略検討の試み —メタ認知とリフレクションからの考察—

野口 寿美子^{*} 伊藤 一美^{**}

Investigating educational strategy for acquisition of competency in nursing education
—Discussions based on metacognition and reflection—

Sumiko NOGUCHI^{*} Kazumi ITO^{**}

^{*}奈良学園大学保健医療学部（〒631-8524 奈良県奈良市登美ヶ丘3丁目15-1）あ

^{*}Faculty of Health Sciences, Naragakuen University. (3-15-1 Tomigaoka, Nara City, Nara Prefecture, 631-8524, JAPAN)

^{**}星槎大学大学院教育学研究科（〒231-0021 神奈川県横浜市中区日本大通11番 横浜情報文化センター5階）

^{**}Graduate School of Education, Seisa University. (Yokohama Information and Culture Center 5th floor, 11 Nihonodori, Naka Ward, Yokohama City, Kanagawa Prefecture, 〒231-0021, JAPAN)

要旨

本研究は、看護学教育におけるコンピテンシー成果修得のための教育方略とは何かを明らかにすることを目的とする。医学教育における教育方法と認知心理学におけるメタ認知とリフレクションに焦点を当て、看護学教育において論じられている先行研究を踏まえて検討をおこなった。それにより、これまでの看護学教育研究の成果に加え、心理学や教育学で得られた有用な知見に基づいた教育内容を取り入れることの有用性が示唆された。学ぶこと、教えること両者の学習方略、教授方略の検討・開発の必要性が明らかにされており、学生がいかに学ぶのかを支援、知識をどれだけ理解したかではなく、どこまでスキルが高くなったのかを評価する教育への変換が求められている。メタ認知は、学習を支える能力のひとつである。何かを学習する際には、効果的な学習方法や、学習をどのようにとらえているのかという学習観、自分自身の理解状態に関するメタ認知が重要となる。また、学習している間、自分の学習を計画し、遂行状態をモニタリングするリフレクションのプロセスは実践からの学びを構築させる。さらに、リフレクションによる内的対話によるフィードバックをうながすには教員がリフレクションの過程のなかで振り返った内容の吟味をうながすこと（強化）が不可欠となる。これらの教育方法によって、自立的な主体性のある成熟したメタ認知を持つ学習者を育成し、コンピテンシー獲得につながることを示唆された。

キーワード： コンピテンシー、メタ認知、リフレクション

1. はじめに

戦後の看護教育改革以降、看護を取り巻く環境は大きく変化してきた。近年、看護師養成教育は、専門学校から看護系大学が中心になってきたといわれている。その背景は、高齢社会看護問題検討会報告書¹⁾において、看護の大学化の促進が提言されたことが端緒となっている。

一方、日本の学士課程教育は、我が国の顕著な少子高齢化や人口減少社会を眼前に、大学の入試による入りの質保証機能の低下から、大学全入時代が到来し、学生自身の目的意識の希薄化や学習意欲の低下、生活体験の不足などが指摘されている²⁾。

このような背景を踏まえ、文部科学省は、平成20年12

月の中央教育審議会答申において、学士課程で身につけておくべき学士力を示し³⁾、経済産業省は、社会人基礎力を提唱している³⁾。また、金井⁴⁾は、地域包括ケアの実現とその質の確保のためには、子ども・高齢者・障害者が地域で暮らすことを支えるように訓練されたコミュニティ・ナースの存在が不可欠であるとして、今後の看護師教育の中で生活支援型の新たな看護師の役割を提言している。このように、近年、医学の高度化と疾病構造の変化や患者ニーズの多様化などで、病院を中心とした医療の場は、地域ケアへと大きく移行し、地域ケアを担う看護師の能力として、多職種連携における調整的な機能を担う新たな役割が求められていることがわかる。さらに、看護師養成校の看護教育の教育内容は、医療の進歩や社会の変化に応じて

高度な教育内容を、学生の学習能力に応じて教育効果が出るように工夫することであると指摘されている⁹⁾。

2. 目的

そこで、本研究は、現代社会が看護師に求めるさまざまな能力（コンピテンシー）を看護学士課程教育で修得させるために必要な教育方略のあり方を明らかにすることを目的とする。

3. 方法

今回は医学教育の先行研究から、看護学教育において“メタ認知”が援用されている関連を検討するために、主に Web 版医学中央雑誌 Ver.5（以下、医中誌 Ver.5）を使用し、“看護学教育”“メタ認知”“臨床・臨地実習”をキーワード検索し 22 件が該当し、4 件を抽出した。次に、リフレクションについても、主に医中誌 Ver.5 を使用し、検索ワードは、“看護学教育”“リフレクション”“臨床・臨地実習”として得られた 63 件からリフレクションを看護基礎教育における実習教育・学習システムに利用している研究に絞り 10 件を抽出した。

今後の看護教育に有用な学習理論として、メタ認知とリフレクションをキーワードに、文献研究を行う。

3.1 用語の定義

以下の用語について、下記のように定義し使用する。

コンピテンシー：

「単なる知識や技能だけではなく、様々な資源を活用して特定の状況の中で複雑な課題に対応できるための核となる能力とする。」（一般社団法人日本看護系大学協議会「看護学士課程教育におけるコアコンピテンシーと卒業時の到達目標、2018」の定義⁶⁾を用いる。）

4. 結果

4.1 医学教育と学習理論について

西城・菊川⁷⁾および菊川・西城⁸⁾は、医学教育の背景となる学習理論がどのように捉えられてきたのかについて概観しており、以下、5つの学習理論を要約する。

まず、成人学習理論（adult learning theory）は、学習者が成熟した自主性のある学習者にどのように成長していくのかを示唆してくれる理論であると述べ、成人学習の前提として、自己概念、過去の経験、学習のレディネス、学習の導入、学習動機がそのカギとして設定されている。これらを教育者が積極的に教育に取り入れることで、学習者が主体的に成熟することが可能になると説明している。

次に、自己主導型学習（self-directed learning）は、医学教育においても欠かすことのできない学習の方針であるとしている。自己主導型学習は、学習者自身が学習のイニ

シアチブを取り、他者の援助を得ながら学習ニーズを定め、目標を設定して学習に必要な資源を見つけ出し、適切な学習方略を選択、応用して、その学習到達度を自己評価する、と定義される。

第3に、自己について振り返り、自らの思考を上位から俯瞰する認知心理学のメタ認知（metacognition）を挙げている。メタ認知は、医師が生涯にわたり自らの学習を分析し、効果的に学び続ける意味で極めて重要な能力であると指摘している。なお、メタ認知の重要性は、次節で、その詳細をまとめている。

第4には、メタ認知と似た概念として、省察（reflection）を取り上げている。医者というのは、予期せぬ状況に直面しても、行動しながらその今を省察（reflection in action）し、対応した後も、そのプロセスを省察する行為（reflection on action）についても議論がなされていると指摘している。なお、リフレクション（reflection）についても、次節で詳しく述べる。

最後に、協同的学習を取り上げている。協同的学習とは、複数の仲間との協力を基盤とした問題解決のための学習の有り方である。協同的学習では、お互いにアイデアを交換し共有していく、学習者の様々な間違いや能力のばらつきは、むしろ学習を促進するきっかけを生み出すと考え、そのばらつきにこそ新たな気づきを促す鍵があると指摘している。社会のニーズに対応する医療を提供するため、職種間の垣根を越えた協働的な学びの姿勢が求められる。受けた学習方略によって、学習者のその後の専門職としての学習態度が形成されるのであれば、協同学習（collaborative learning）のエッセンスは医学教育に導入されてしかるべきであるとしている。

以上のことから、同じ医療である看護学教育においても、さまざまな学習理論に基づいた教育が重要であることが分かる。ここでは、メタ認知とリフレクションの2点に焦点を当て看護学教育でどのように論じられてきたのか先行研究を踏まえて検討する。

4.2 メタ認知（metacognition）とは何か

メタ認知とは、学習を進めるときに自分の学習の長所や問題点についての知識、課題の要求に関する知識、方略に関する知識などを使うことで、自分の学習過程を統制し、計画や遂行をモニターし、適切な時にエラーを修正する力、とされている。メタ認知は、認知心理学領域で使用される言葉で、1970年代に広まった⁹⁾。「メタ認知とは、人の学習や思考活動に関連する知識であり、学習や思考を統制する活動である」と定義されている¹⁰⁾。

図1は、三宮¹¹⁾がまとめたメタ認知の各要素である。三宮によると、メタ認知は、自己の認知（記憶、思考、学習など）とその制御についての知識（メタ認知的知識）であり、学習の過程を体制化したり、監視したり、修正したり

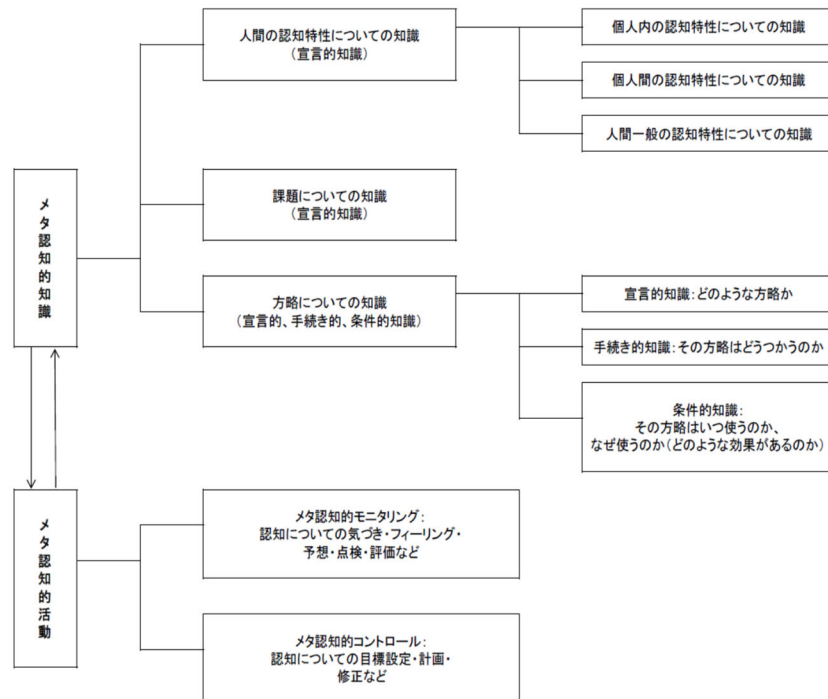


図1 メタ認知の分類 (文献¹¹⁾より転載)

する制御の活動（メタ認知的活動）も含んでおり、メタ認知をメタ認知的知識、メタ認知的活動に大きく分類している。また、このようなメタ認知的な行為は、学習の成功を左右し、教育の場で学生や教師のメタ認知に働きかけることで学習法や教授法が改善されると指摘されている¹¹⁾。

4.3 メタ認知に対する先行研究

前節で示したとおり、メタ認知は看護学教育においても有用であることがわかる。そこで本節ではメタ認知の観点から看護学士課程における学びの促進が期待できるような教授方法について抽出した抽出した文献を表1に示し、以下、それぞれの概要をまとめた。

土肥ら¹²⁾は、臨地実習における学生のメタ認知を促進する支援に、教員の経験や臨床学習環境がどのような影響を及ぼすのかを分析し、臨床学習環境がメタ認知的知識の促進への支援に影響を与えることを明らかにしている。学生のメタ認知を促進する支援は、「メタ認知的知識の促進の支援」と「メタ認知的活動促進への支援」の2因子であることを見だし、教員によるメタ認知的知識を促進する働きかけが重要であると示唆している。さらに、学生が臨床の学習活動においてメタ認知を効果的に働かせることによって、看護実践能力の育成につながる可能性があることを述べている。

仲里ほか¹³⁾は、公衆衛生看護学におけるグループワークの効果から、実習後のまとめや最終レポートの作成での振り返りによって、新たな課題に気づき、メタ認知的知識

をより多く獲得できたとした。グループワークが学生のメタ認知的知識を養うことに影響することを明らかにし、今後保健師として出会うあらゆる場や対象を把握し対応する時に、応用できる利用可能なメタ認知的知識は実習を通して多数獲得していくことが非常に重要であると結論づけている。

井下¹⁴⁾は、記録に対する考え方や記録を書く行為を「記録の認知過程」ととらえて、インタビューの発話内容を情意的側面・認知的側面・環境的側面の3つにカテゴリー化して分析した。これらの結果から、記録をモニターし、看護過程を内省するメタ認知能力の育成が看護の専門性を確立するためにも重要であると指摘している。

西城ら¹⁵⁾は、医学教育の目指す学習者像は、成人としての主体的学習者、自己主導的な学習者、成熟したメタ認知を持つ学習者、省察的实践家、協同的学習者があると紹介した。成熟したメタ認知を持つ学習者とは、自己について振り返り、自らの学習思考をさらに上位から俯瞰する行為のメタ認知は、医師が生涯にわたり自らの学習を分析し効果的に学び続ける可能性を広げる意味で極めて重要な能力であるとしている。西城ら¹⁵⁾が引用しているSchönが提唱した振り返りを実践できる実践的省察家の概念を用いて、現在の医学教育においても、省察能力を有する生涯学習者として成熟し続ける医療者を、省察という方略を通じて育成することが望まれていたとした。

次に、現代の複雑化し高度化した社会のニーズに対応する医療提供のためには、より職種間の垣根を超えた協働的な学びの姿勢が求められるため、協同的な学習の重要性を

表1 メタ認知の先行研究一覧

	著者	論文題目	掲載誌	巻(号)	頁
1	土肥他 2016	看護系大学教員が行う臨地実習における学生のメタ認知を促進する支援に影響する要因の検討	日本医学看護学教育学会誌	25 巻 1 号	1-7
2	仲里他 2016	公衆衛生看護学におけるより効果的な健康教育実習を目指した指導法の展開対象者の特性把握のためのグループワークに着目して	医療看護研究	13 巻 1 号	34-42
3	井下 2000	看護記録の認知に関する発話分析―「看護記録の教育」に向けた内容の検討―	日本看護科学会誌	20 巻 3 号	80-91
4	西城ら 2013	医学教育における効果的な教授方法と意味のある学習方法①	医学教育	44 巻 3 号	133-141

示している。

4.4 リフレクション (reflection) について

田村・津田¹⁶⁾によると、リフレクションの概念は、直接的には教育哲学者 J. Dewey の実践的認識論に基づくリフレクティブ・シンキングに由来しているとされる。それは、「経験のなかでの思考」と「経験についての思考」という経験哲学が基礎的理論となった実践的思考についての概念である¹⁷⁾。

リフレクションはさまざまな研究者により定義がなされている。このことについて、Boyd & Fales²⁴⁾は、「経験によって引き起こされた気にかかる問題に対する内的な吟味および探求の過程であり、自己に対する意味づけを行ったり、意味を明らかにするものであり、結果として概念的な見方に対する変化をもたらすものである」としている。

また、田村・池西¹⁹⁾は、看護におけるリフレクションの定義として、「看護実践の中で感じた不快な感情や違和感をきっかけに始まる経験の振り返りによって、看護実践能力を高めていく思考様式である。また、リフレクションは経験を想起し、それを注意深く吟味することによって、その状況に対する見方や広がりや変化を可能にし、看護実践のレパートリーを増やし、あるいは新たな看護実践を創造することを可能にする意図的な思考プロセスであり、看護基礎教育、現任教育を問わず、学習可能な思考のスキルでもある。」と説明している。田村・池西¹⁹⁾は、看護におけるリフレクションの意義や重要性が徐々に浸透し、基礎教育、現任教育でリフレクションの学習を取り入れている報告が増えたと述べているが、リフレクションの概念定義がいまだに統一されたものはないことも説明している。

森田²⁰⁾は、Schön の行為のなかの省察の概念を参照し、医学教育において、クライアントと協同でその問題の解決を図ることを意味しているとした。この概念を活かしたカリキュラム構造は、「理論」と「実践」を交互に組み合わせながら同時進行で行い、臨床実践で生じた問題点との対話を通して、学習すべき目標を省察しつつ基礎理論を学び、その省察を反省しながら次の段階に進むと述べてい

る。早期体験実習 (early exposure) などの基礎医学と臨床実践を同時進行で学習するカリキュラムや問題基盤型学習 (Problem based learning) などの現実的な問題や事例を中心に据えたカリキュラムが推進されているとしている。

また、和栗²¹⁾は、reflection を「ふりかえり」と訳している。ふりかえり (reflection) を通した学習が大学教育で展開される必要性から、ふりかえりが、価値観が多様化し変化が激しい社会のなかで、他者とかかわりあいながら自主的に生き、学び続けるために必要な能力として注目し、大学教育においても、知識を教授するあり方から、学生自身が自ら進んで学び取るためには、批判的思考と学生自身のふりかえりを支援し育成する教育の展開の必要性を説き、そのことが学生の認識の変容につながると強調する。ふりかえりによって、課題発見や異なる視点への気づき、何らかの行為に伴う結果予測がうながされ、それぞれの体験に関連した自身の行為や意見、価値観、前提、判断等を分析、もしくは形成することをうながすとされ、クリティカルシンキング (批判的思考) のスキルが身につく。」と述べている。

Gibbs²²⁾は、Kolb²³⁾の影響のもと、リフレクション学習の枠組みを作成し、その後修正を加えて6つのステージをリフレクションのサイクルとして表している (図2)。

楠見²⁵⁾は、熟達者がもつ実践に関する知性を実践知と述べ、実践知を獲得する学習過程を熟達化であると定義している。熟達化には現場での経験を省察を通して、内面化し、暗黙知に変換するという知識変換が重要であるとし、暗黙知とは経験から直接得た知識であると説明している。熟達化の過程では、情報の処理の仕方や、それを一段高い位置からモニターする自己制御 (メタ認知的コントロール) や省察 (reflection) というメタ認知的スキルが対応しているとしている。さらに、楠見²⁵⁾は、熟達した看護師は、省察 (reflection)、経験から学習する態度と批判的思考を下支えにして、①人間関係の維持・発展を支えるヒューマンスキル。②看護ケアに関するテクニカルスキル。③自分の動機づけと組織のなかで活かす自己管理としてのメタ認知。④これらの上位に課題解決やビジョンの立案のコ

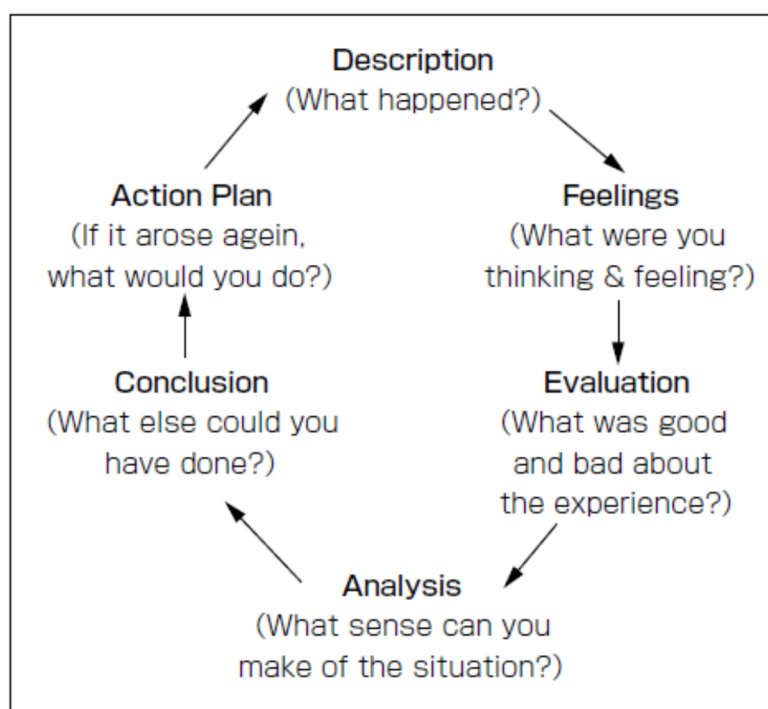


図2 Gibbs のリフレクティブサイクル (文献²²⁾より転載)

ンセプチュアルスキルに支えられていると説いている。

また、楠見²⁵⁾は、メタ認知能力とスキルは、看護の未来の教育に向けて、知識を新たに自分で創りあげて行くために必要なスキルであるといえると指摘している。認知科学において“人はいかに学ぶか”という問いに対しては、学習・発達に関する人間の特性は既に明らかになってきており、特に、協調的な学習場面では、他人への説明、議論、他人の意見との比較対照する活動が起き、結果、自分自身の知識の吟味と再構成活動が促進されることを示唆している。

以上のことから、筆者は、学士力・社会人基礎力・看護実践能力のいずれも、これらを育成するためには、学生が学びを通して知識を構成し、それらの経験に関連づけていく過程で自分自身を俯瞰的にとらえる“メタ認知”が学習の支えとなり、講義や教科書で学ぶ形式知を経験のなかで実践知(暗黙知)に構成していくためのリフレクション(reflection)が欠かせないのではないかと考える。

4.5 リフレクションに関連する先行研究

先行研究(表2)において、看護学生を対象としたリフレクション研究では、実習記録や面接、カンファレンスなどから学生のリフレクション内容やその過程を明らかにし、リフレクション活用の効果を述べたものが多くみられる。また、教員を対象としたリフレクション研究では、授業によるリフレクション効果の検討や、リフレクションを用いた実習指導の効果の分析、リフレクションを促進する教育的関与方法などの検討がみられる。

なお、リフレクション(reflection)という用語について

は、研究者によって、“ふりかえり”あるいは“省察”というように、さまざまな訳が使用されている。以下の先行研究のまとめでは、それぞれの論文に使用されていたとおりに記述しているが、本研究では、同じ概念を指しているとしなす。

矢田ら²⁶⁾は、看護学生のリフレクションを成立させるために、Gibbs²²⁾のリフレクションサイクルをもとに教員の発問ガイドを作成して、リフレクションを成立させるためには、サイクル「記述」では、印象場面や状況を経時的に、5W1Hで明確に発問すること、サイクル「分析」においては、学生自身の思考や行動特性を看護実践と関連させて自覚できるような発問が必要と述べた。

日下ら²⁷⁾は、学生のリフレクションに関する文献レビューから、リフレクションの方法として、リフレクティブ・ジャーナル、ピアグループ、ファシリテーター、ナラティブ・アプローチが行われ、これらの方法により、自己の行動の特性、傾向、患者への関わり方の特性の理解の促進など幅広い効果が期待されると示唆している。

寺田²⁸⁾は、看護教員自身の看護教育実践のリフレクションに焦点を当てて文献レビューし、看護学の領域においてリフレクション研究は2007年以降に急速に増え、2014年にピークに達しているとした。背景には、faculty development(FD)研修の義務化や看護師新人研修の努力義務が影響しているとしている。また、教員自身のリフレクションでは、気づき、自覚、内省や熟考、意味づけの促進、学生が見える、自己効力感、肯定感、授業改善

表2 リフレクションの先行研究一覧

	筆者	論文題目	掲載誌	巻(号)	頁
1	矢田 2017	看護学生のリフレクションを成立させるための 教員の発問の検討	日本看護学会 論文集：看護 教育	47号	71-74
2	日下ら 2016	看護基礎教育学習者のリフレクションに関する 文献レビュー	日本医学看護 学教育学会誌	25巻1号	8-14
3	寺田ら 2016	看護教員に焦点を当てたリフレクション研究に 関する考察	神奈川歯科大 学短期大学部 紀要	3号	53-60
4	道廣他 2015	看護学生の反省的実践とリフレクティブな実践 家に育成するための要件 reflection・in-action と reflection・on-action を中心に	インターナシ ョナル Nursing Care Research	4巻3号	1-12
5	深田他 2015	学生のリフレクションをうながす経験型学習 主体的に学部力を育成するための取り組み	鹿児島大学医 学部保健学科 紀要	25巻1号	11-18
6	佐藤 2013	“Peer learning”を活用した看護学実習」の効果 と課題	看護教育研究 学会誌	5巻2号	15-24
7	谷口 2010	看護学生の早期体験実習後の構成的エンカウ ンターグループを用いたリフレクション	看護教育研究 学会誌	2巻2号	43-50
8	大澤ら 2010	対話的リフレクションを用いた実習指導法の検 討	日本看護学会 論文集：看護 教育	40号	164-166
9	中田他 2005	基礎看護学実習におけるリフレクティブ・ジャー ナル上での教師と学生の対話の意義	神戸大学医学 部保健学科紀 要	20巻	77-83
10	和栗 2010	「ふりかえり」と学習—大学教育におけるふり かえりの支援のために—	国立教育政策 研究所紀要	139集	85-100

という共通の効果を述べた。

道廣ほか²⁹⁾は、反省的実践をしている学生の特徴は、受け持ち患者と一生懸命向き合い、常にリフレクティブ・シンキングし、患者の状態を改善したいと考えていると述べ、これはリフレクティブな指導者・教員の時機を得た的確な指導で反省的実践が高まることを示唆されたとする。

深田ほか³⁰⁾は、これまでの実習教育を見直し、個別の看護過程の展開から、複数の受け持ち患者を看護師とともに見る実習方法と理論→演習→実習から実習→演習→理論への往還する経験型学習でも看護実践のリフレクションと看護行為の意味づけを行うことで、対象の理解や看護過程の理解は可能であるとした。

佐藤³¹⁾は、小児看護学実習における Peer learning を実施した効果を分析し、問題解決、知識技術の共有、リフレクションによる学び、精神的影響、責任感、人間関係、役割など生じ、これまでの小児看護学実習での課題（病院小

児科の縮小、実習場所の不足、患者数の減少など）の困難さが克服でき、有用な教育方法であると説いた。

谷口³²⁾は、早期体験実習において、構成的エンカウンターグループをリフレクションツールとして検討し、短時間でグループのエンパワメント効果から自己理解を深めることができ、初学者の実習経験におけるリフレクションの有用性が示唆されるとした。

大澤ら³³⁾は、基礎看護学実習において、学生が直面する不安や困難をあげる実習初期の課題をとらえ、実習初期に個別面接時対話的リフレクションを用いた指導を試み教員の関わりを分析している。経験の意味づけを行う援助を教員が行うことで学生の変容がうながされるとしている。

中田ほか³⁴⁾は、基礎看護学実習におけるリフレクティブジャーナル（以下 RJ）の記述内容を分析し、RJ 上での学生と教師の対話が学生の自己への気づき、記述・描写、

分析、統合、評価が促進されており、RJ 上での教師と学生の対話は学生のリフレクティブなスキルの活用をうながし、その修得を促進する可能性が示唆されたと述べている。

ふりかえり支援のためには、検討事項として、先行条件（ふりかえりの目的や方法を授業設計のなかに織り込む）、個別条件（個別性の高い関心・傾向・活動をより知ろうとし、それに合わせた支援の検討をする）、プロセス、方法は①ひとりで、②ほかの学生と、③教員との3種類分けられる。

以上のことから、さらに、メタ認知的知識とリフレクションを踏まえ、教員と学生がそれぞれ意識化したうえで、看護学教育を行っていくことは、さまざまな課題を抱えたうえに多くの制約がある臨地実習において、学生の実習の経験を、今まで以上に、深い学びに結びつけることができるのではないだろうか。

5. 考察

メタ認知とリフレクションが、看護師養成にも有効であることが先行研究から示唆された。看護実践は、人と人との関係性の中で生じる経験を意味づけたり、説明を可能にするためには、一旦、自身を外化させる必要がある。外化して俯瞰的に自身を見つめることで、意味づけが内化される。このような経験を重ねていくことで、経験が深まり思考が広がる。

このような学びは、少子高齢社会全体を支える地域包括ケアにおいて、看護職に求められる資質を育てることにつながる。認知心理学の立場から、人がどのように学ぶのかという研究が進められ、教授方法や教育法については、メタ認知の促進が効果的な学習支援法と考えられ、メタ認知をうながすことで学習力を高めることが示唆されてきた。アメリカ心理学会（American Psychological Association: APA）は、「学習者中心の心理学的原則」を1990年に発表している³⁵⁾。これは、1世紀以上かけて培われた心理学と教育の研究と理論を統合し、一般的な原則と学校改革と再設計の枠組みを示したものである。効果的な学習には、メタ認知、学習観、学習方略といった発想を活かした指導上の工夫を取り入れることが重要である。メタ認知的知識の獲得がメタ認知活動に影響を及ぼす。メタ認知的知識の獲得には教師によるフィードバックが不可欠となる。三宮³⁶⁾が明らかにしているように、学力とメタ認知の間には有意な相関関係があり、臨床的推論の一つとして着目されている。この臨床的推論は、臨床判断モデルが示す看護師のように考え、患者のニーズ、関心ごと、健康問題をとらえて解釈し、患者を統合的に把握するなかで、看護行為を行うか行わないか、行うとしたらどのような行為を行うかを判断し、実施する。さらに患者からの反応をとらえて適切と思われる新たな行為を即興的に行うことを表す³⁷⁾。

一方、リフレクションを通して事後的に自分自身の実践を振り返ることは、経験を意味づけしたり、吟味することであり、実践知を獲得していくうえでも必須の営みであると考えられる。さらに自分自身の実践を問い直すことによってさまざまな気づきや課題が明らかとなり、その後の変容や変革を促進するものである。それゆえ、実践を通して学ぶ看護師にとっては価値ある活動であることが多くの文献によって示されている。

今後、ますます、病院から在宅へと看護の“場”の変化によって生じる諸問題に対処するためには、これからどのような教育方法が有効なのか。対人援助サービスに共通する必要なことは“自分を知る=メタ認知”の重要性である。自分の姿を一段高い所から客観視する能力（メタ認知）は、どのようにして鍛えると効果的なのか。認知心理学の視点から、“言語化”というキーワードが示された。書くこと、話すことを通して曖昧なものを明確化し、リフレクションを行うことで新たな気づきをうながす。その際、助言する・強化するといった重要他者からの適切な時期の適切なフィードバック“協同学習”が重要な意味をもつ。自己制御とモニタリングの能力を高めるために、問題解決の場面で相互教授法により足場作りやモデリングによる指導が提案されている。さらに文章を読み・重要なポイントを把握し内容理解できるまで読み込むことで強化すると同時に、自己肯定感をうながす機能“動機づけ”がメタ認知的学習を促進させる。

教育の目標は、学生が自分自身で知識を発見していくよう導くことにある。看護の学習者が知識を看護実践へと転換し、すぐ通用させることができるためには、学内講義と実習内容を別科目にするのではなく、可能な限り、講義内容と実習は並行して計画することが望ましいことが指摘されている³⁸⁾。高度な知識伝達や情報理解重視の受動的学習から、自己主導の能動的学習に向かうためには、これまでの看護学教育研究の成果に加え、科学的知見に基づいた認知心理学や教育学などの理論を共有し、どこまでスキルが高くなったのかを評価する教育への変換が求められている。そのための教育方法や評価法の開発によって、コンピテンシー獲得に向かうのだと考えられる。

6. 結語

メタ認知は、学習を支える能力のひとつである。何かを学習する際には、効果的な学習方法や、学習をどのようにとらえているのかという学習観、自分自身の理解状態に関するメタ認知が重要となる。また、学習している間、自分の学習を計画し、遂行状態をモニタリングするリフレクションのプロセスは実践からの学びを構築させる。学生のメタ認知をうながせるよう、グループ活動（協同学習）のプロセスでの相互教授法、教師による足場かけなどさまざまな仕掛け（工夫）を行う。

リフレクションによるフィードバックをうながすには、知識やスキルが乏しい学生はそれらをうまく活用することが困難であるため、教員がリフレクションの過程のなかで、振り返った内容の吟味をうながすこと（強化）が不可欠となる。その際には学生が答えを導き出すまで待つこと、教員も学生もメタ認知的活動を意識化すること、さらにリフレクションの観点からの行動を高める必要があるといえるのではないだろうか。

学生の学習促進には教師の教育力が不可欠であり、さらに、制約のある臨地実習においては、看護を実践する機会が制限されているため、実践現場に近い経験を繰り返し訓練できるシミュレーション教育の充実や模擬患者の導入など、学内での看護を体験する場の充実を図る必要性があると考えられる。

<利益相反について>

この研究内容に関する利益相反事項はありません。

(2019.1.29- 投稿, 2019.2.28- 受理)

文 献

- 1) 少子・高齢社会看護問題検討会. 少子・高齢社会看護問題検討会報告書. 1994.
- 2) 文部科学省. 学士課程教育の構築に向けて（答申）. 2008.
<http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1217067.htm> (2017.11.9.閲覧)
- 3) 経済産業省. 社会人基礎力に関する研究会-答申. 2006.
<http://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/kisoryoku_chosa.html> (2017.11.30 閲覧)
- 4) 金井一薫, 川上嘉明・他. "コミュニティ・ナース" 養成の必要性と可能性—生活支援型看護モデルの構築—. 2013.
- 5) 板垣恵子. 東北文化学園大学看護学科紀要. 4(1): 1-9, 2008.
- 6) 一般社団法人日本看護系大学協議会. 看護学士課程教育におけるコアコンピテンシーと卒業時の到達目標(案). 2017.
<<http://www.janpu.or.jp/file/Report.pdf>> (2018.9.23 閲覧)
- 7) 西城卓也, 菊川誠. 医学教育における効果的な教授法と意味のある学習方法(1). 医学教育, 44(3) 133-141, 2013.
- 8) 菊川誠, 西城卓也. 医学教育における効果的な教授法と意義ある学習方法②. 医学教育, 44(4) 243-252, 2013.
- 9) 市川伸一. 現代の認知心理学 5 発達と学習. 北大路書房, 2014, 172-173.
- 10) Brown, A.L., Bransford, J.D., Ferrara, R.A., & Campione, J.C.. Learning, remembering, and understanding. In J.H. Flavell & E. M. Markman (Eds), Hand-book of child psychology Vol. 3. Cognitive development, 77-166. 1983.
- 11) 三宮真智子. メタ認知 学習を支える高次認知機能. 北大路書房, 2008, 8-9, 13.
- 12) 土肥美子, 細田泰子・他. 看護系大学教員が行う臨地実習における学生のメタ認知を促進する支援に影響する要因の検討. 日本医学看護学教育学会誌 25(1) 1-7, 2013.
- 13) 仲里良子, 櫻井しのぶ・他. 公衆衛生看護学におけるより効果的な健康児教育実習を目指した指導法の展開. 対象者の特性把握のためのグループワークに着目して 13(1) 34-42, 2016.
- 14) 井下千以子. 看護記録の認知に関する発話分析—「看護記録の教育」に向けた内容の検討—. 日本看護科学会誌 20(3) 80-91, 2000.
- 15) 前掲書 7).
- 16) 田村由美, 津田紀子. リフレクションとは何か その基本的概念と看護・看護研究における意義. 看護研究 41(3) 171-181, 2008.
- 17) Dewey, J. Experience & Education. Touchstone. Dewey, J. How We Think. Dover Publication. Jasper, M. Beginning Reflective Practice. Nelson Thornes, 22, 2003.
- 18) Boyd & Fales, A. Reflective learning: key to learning from experience. Journal of Humanistic Psychology 23(2) 99-117, 1983.
- 19) 田村由美, 池西悦子. 看護の教育・実践にいかすリフレクション: 豊かな看護を拓く鍵. 南江堂, 13; 21-22; 27, 2014.
- 20) 森田孝夫. 医学教育論—教育原理 成人教育学, 専門家（プロフェSSIONナル）教育 理論より医学教育を考える—. Journal of Nara Medical Association 56(2) 81-90, 2005.
- 21) 和栗百恵. 「ふりかえり」と学習—大学教育におけるふりかえり支援のために—. 国立教育政策研究所紀要 139 集 85-100, 2010.
- 22) Gibbs, G. Learning by doing: A guide to teaching and learning methods. Further Educational Unit, Oxford Polytechnic, Oxford, 1988.
- 23) Kolb, D. Experiential Learning as Science of Learning and Development. Prentice Hall, 1984.
- 24) Boyd, E.M. & Fales, A.W. Reflective learning, key to learning from experience. Journal of Humanistic Psychology 23(2) 99-117, 1983.
- 25) 楠見孝. 実践知—エキスパートの知性. 金井壽宏・楠見孝編, 実践知—エキスパートの知性. 株式会社有斐閣, 2017, 4-28.
- 26) 矢田フミエ. 看護学生のリフレクションを成立させるための教員の発問の検討. 日本看護学会論文集 看護教育(47) 71-74, 2017.
- 27) 日下菜摘, 池田智子. 看護基礎教育学習者のリフレクションに関する文献レビュー. 日本医学看護学教育学会誌 25(1) 8-14, 2016.
- 28) 寺田智美, 棚橋泰之・他. 看護教員に焦点をあてたリフレクション研究に関する考察. 神奈川歯科大学短期大学部紀要 (3) 53-60, 2016.
- 29) 道廣睦子, 小林廣美・他. 看護学生の反省的実践とリフレクティブな実践家を育成するための要件—reflection-in-action と reflection-on-action. インターナショナル Nursing Care Research 4(3) 1-12, 2015.
- 30) 深田あきみ, 新橋澄子・他. 学生のリフレクションを促す経験型実習: 主体的に学ぶ力を育成するための取り組み. 鹿児島大学医学部保健学科紀要 25(1) 11-18, 2015.

- <<http://hdl.handle.net/10232/23888>> (2017.11.9 閲覧)
- 31) 佐藤朝美. “Peer Learning” を活用した看護学実習の効果と課題. 看護教育研究学会誌 5(2) 15-24, 2013.
- 32) 谷口清弥. 看護学生の早期体験実習後の構成的エンカウンターグループを用いたリフレクション. 看護教育研究学会誌 2(2) 43-50, 2010.
- 33) 大澤妙子, 富澤美幸. 対話的リフレクションを用いた実習指導法の検討. 日本看護学会論文集: 看護教育 (40) 164-166, 2010.
- 34) 中田康夫, 田村由美・他. 基礎看護実習にリフレクティブジャーナル上での教師と学生の対話の意義. 神戸大学医学部保健学科紀要 20 77-83, 2005.
- 35) American Psychological Association Presidential Task Force on Psychology in Education. Learner-centered psychological principles: A framework for school redesign and reform. Washington, DC: American Psychological Association, 1997.
<https://www.apa.org/ed/governance/bea/learnercentered.pdf>
(2017.10.30 閲覧)
- 36) 前掲書 11)
- 37) 三浦友理子, 奥裕美・他. 寄稿 教育から臨床へ 看護師の思考を学ぶ 新人看護師が看護師らしい思考を獲得するための手掛かりとして. 医学書院, 2016.
<http://www.igakushoin.co.jp/paperDetail.do?id=PA03201_02>
(2018.1.5 閲覧)
- 38) 勝原裕美子 監訳. 臨地実習のストラテジー. 医学書院, 2002, 12; 128.

Investigating educational strategy for acquisition of competency in nursing education —Discussions based on metacognition and reflection—

Sumiko NOGUCHI* and Kazumi ITO**

*Faculty of Health Sciences, Naragakuen University. (3-15-1 Tomigaoka, Nara City, Nara Prefecture, 631-8524, JAPAN)

**Graduate School of Education, Seisa University. (Yokohama Information and Culture Center 5th floor, 11 Nihonodori, Naka Ward, Yokohama City, Kanagawa Prefecture, 〒231-0021, JAPAN)

Abstract

This study aimed to elucidate an educational strategy for the acquisition of competency in nursing education. This study discussed nursing education considering existing literature by focusing on metacognition and reflection in educational methods and on cognitive psychology in medicine education.

This study indicated the effectiveness of incorporating educational contents depending on useful knowledge from the fields of psychology and pedagogy and depending on results of past nursing education studies. The necessity of review and development of both learning and teaching strategies was clearly indicated. Rather than just evaluating the amount of knowledge that students understand, shifting the education strategy for supporting the manner in which students learn and evaluating the level of skill development is required.

Metacognition is a competency that supports learning. During learning, effective learning methods, learning perspective, and metacognition associated with an individual's level of understanding are important to assess the learning state. The reflection process that plans one's own learning and monitors the performance during learning can result in effective learning from practice. Furthermore, to encourage feedback through internal dialogue in reflection process, teachers must encourage (emphasize) to scrutinize contents reviewed during the reflection process. With such an educational method, independent and autonomous learners with mature metacognition can be fostered, leading to the acquisition of competency among such learners.

Key Word : Competency, Metacognition, Reflection